

平成17年度エネルギー教育地域拠点大学に選定

－教育学部申請の研究テーマが採択－

(財)社会経済生産性本部・エネルギー環境教育情報センターの平成17年度「エネルギー教育に関する研究・実践を推進する地域拠点大学」に、教育学部が申請した研究テーマ「山陰の地域に根差したエネルギー環境教育に関する実践的研究」が選定された。

この事業は、経済産業省・資源エネルギー庁の委託によるもので、地域においてエネルギー教育に関する研究や実践を行うための組織作りとそこでの積極的な取り組みに対し、全国の大学の中から公募を通して「地域拠点大学」として選定されたものである。

本年度の拠点大学は、北見工業大学、岩手大学、上越教育大学、島根大学、高知大学の5大学が新規に選定され、継続分を含めると13大学となっている。

【研究テーマの概要】

島根大学が位置する松江市は、県庁所在地に原子力発電所が立地する日本で唯一の都市であり、しかも、宍道湖・中海

に代表される「汽水域の自然」や昔ながらの「里山の自然」が数多く残る都市である。視界を広げれば、近隣には「たたら製鉄」や「石見銀山」など、過去において日本の工業の中心として栄えた文化遺産が数多く存在し、人と自然のゆるぎない共生の歴史がこの山陰には存在している。これら山陰地方のローカルな事象を、現代のグローバルなエネルギー環境教育的視点から掘り下げ、特色のあるエネルギー環境教育プログラムを作ることが本研究の目的である。

そのために、教育現場とのつながりの深い島根大学教育学部が中心となり、地域の小・中学校や高等学校、教育センター、社会教育機関などとのネットワークを構築し、教材開発、人材育成、教育実践活動を行うものである。更には、インターネットを通して、成果を世界に発信する。

なお、研究期間は3年であり、興味のある方の参加を学内外から募っている。